

コインに描かれた動物たち

前 田 米 太 郎

コインや切手を収集している人が多いが、私もこれらに興味をもっている一人である。切手は記念切手を含めると、国ごとに年間何十種類も発行されるし、取り扱いや保存がむずかしく、特に湿気には細心の注意が必要で、汚したり、くっつけたりすると価値を失ってしまう。この点コインは何年間も同じ図柄のものが造られて、切手ほど種類が多くはないし、保存もアルミ貨以外は比較的容易であるので、コインのほうが気楽に収集できる。

コインに描かれた図柄は、切手と同様にその国の紋章、元首、英雄、地図、建造物、乗物、動植物、民芸品などが多いが、私は職業から、特に動植物のコインに興味をもっている。私の集めたコインや手もとにある関係の書籍を見ながら、そこに描かれている動物を紹介してみたい。

I わが国のコインに描かれた動物

日本のコインに出てくる動物は、外国と違って架空のものが多く、実在の動物は、終戦直後に出た5銭錫亜鉛貨(昭20. 21)と5円黄銅貨(昭23. 24)のハト、50銭黄銅貨(昭21. 22)の魚、沖縄海洋博記念100円白銅貨(昭50)のイルカぐらいではないかと思う。

明治3年の昔、貨幣の鑄造に当って、先進国のコインが研究されたが、外国のコインには、皇帝や女王の肖像が描かれているものが多かったので、わが国でも天皇のお姿をとということになったが、おそれ多いとの意見が強く、政府が容認しなかったので、そのかわりとして、昔から天子の象徴として描かれてきた竜を用いることになった。この年に鑄造された20円、5円、2円の金貨、1円、50銭、20銭、10銭、5銭の銀貨には口を開いた阿竜が、明治6年から造られた2銭、1銭、半銭銅貨には口を閉じた吽竜が描かれている。ところが日清戦争後は、竜をとうとぶのは中国の思想で、天皇の象徴としてはふさわしくないということで、旭日の図案に変更されたり、裏側(明治30年までは竜のあるほうが表、それ以降は製造年銘のあるほうが裏)にまわすことになり、明治30年発行の20円、10円、5円金貨から順次変えられて、大正3年の新1円銀貨を最後に竜の図は貨幣から消えていった。

私たちにはなつかしい小型50銭銀貨は、大正11年から発行されたが、これにはほうおうが描かれている。ほうおうは辞典によると、きりん、亀、竜と共に四瑞と呼ば

れた想像上のめでたい動物で、聖徳の天子の兆として現われるとある。戦後の50銭黄銅貨(昭21. 22)や100円銀貨(昭32. 33)にも描かれている。写真はすべて実物大です。



ほうおう



金 鷄

このほかに動物としては、5銭ニッケル貨(昭8~12)や5銭アルミ貨(昭15~18)には、金色の光を放って東征軍に勝利をもたらしたという金鷄(金のトビ)がでており、また昭和13年の1銭銅貨、およびこれと同形小形の1銭アルミ貨(昭13~15)には、やはり神話に出てくる八咫鳥(やたがらす)が描かれている。

現在我々が使用しているコインをとり出してみると、100円(桜)、50円(菊)、10円(平等院)、5円(イネ)、1円(苗木)とほとんどが植物ばかりで、動物は平等院の屋根のほうおうくらいであろうか。

日本のコインは外国のものに比べて、字の部分が多いので、字を減らして美しい動物の絵がほしい。また昭和何年という年銘は、国際間のゆききが激しくなった現在、外国人にはわかりにくいので、西暦紀元にするか、あるいは昭和と西暦を併記するかのどちらかがよいのではないだろうか。我々がタイ、ネパール、エジプト、イスラエルなどの国のコインを見て、どれぐらいの額面のコインか、いつごろ鑄造されたかがわからない。参考書で調べて数字が読めても、タイ暦は543年、ネパールは57年引算して西暦になるので、いちいち計算しなければ



タイのコイン



中国のコイン

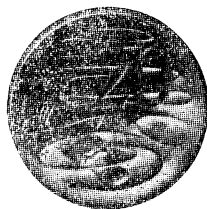
ならない。日本の「昭和52年」も外国人から見れば、我々がネパールやタイのコインにとまどうのと同じであるから、年号の表記にはくふうがいろいろあると思われる。中国はすでに西暦で表示しており、わが国でも記念切手は、西暦で表示されているので、コインだけが昭和の年号にこだわらなくてもよいのではないだろうか。

II 外国コインに描かれた動物

外国のコインには、数多くの動物コインがある。最近約30年間に発行された外国コインの30%近くが動物コインで、そのうちの約 $\frac{1}{3}$ が図案化されたもの（ワシ、ライオン、魚などが多い）や想像上の動物（ペガサス、双頭のワシ、からじし、ほうおうなど）である。ここではそれらを除いて、實在、そしてリアルに描かれている動物についてのみ書いてみる。

1. 特産動物を描いたコイン 国名ABC順

オーストラリア カンガルー、エミウ、ヒツジ、エリマキトカゲ、コトドリ、ハリモグラ、カモノハシ
 バハマ連邦 フラミンゴ、ヒトデ^{注1}、ホラガイ、エビ、ソトイワシ^{注2}
 バルバドス アジサシ、トビウオ
 ベリーゼ オオハシ、コンゴウインコ、グンカンドリ、ヒタキ、トビ
 バーミユダ ネットアイチョウ
 ボツワナ シマウマ
 ブラジル イヌ
 バージン諸島 カッシュクペリカン、ゼナイダバト、ハチドリ、シマイリカワセミ
 カンボジア ヤケイ（野鶏）
 カメルーンなどアフリカ中部の国々 ウシ科のレイウウの仲間
 カナダ ビーバー
 チリ・コロンビア・メキシコ コンドル^{注3}
 コモロ諸島 巻き貝、シーラカンス
 クック諸島 キングフィッシャー（鳥類）、カツオ、ホラガイ
 コスタリカ オオアリクイ、カイギュウ、ミドリウミガメ
 赤道ギニア ニワトリ
 フォークランド諸島 ペンギン、オタリア（アシカ）
 ガンビア カバ、ワニ
 グアテマラ ケツアルチョウ^{注4}
 ギニア カイギュウ、ジャガー、コンジェキジ、カイマン（ワニ）、サキウインキ（サル）、オウギワシ
 ギニア タカラガイ



カモノハシ
(オーストラリア)



トビウオ
(バルバドス)

インドネシア ゴクラクチョウ、カンムリバト、サル、オオトカゲ

アイルランド 現行コインのほとんどが動物で、ニワトリ、ブタ、ウサギ、イヌ、ウシ、ウマ、サケ、タシギなどがある。

ジャマイカ ハチドリ

ジャージー エビ

リベリア アフリカゾウ

マレーシア スイギュウ、マレーバク

マリ カバ、ウマ、ライオン

マルタ ミツバチ

モーリシャス ドド、チョウ、シカ^{注5}

蒙古人民共和国 ウマ、フタコブラクダ、アルガリ（ウシ科）

ニュージーランド ムカシトカゲ、キウイ

ネパール インデアンサイ、アカパンダ、ニジキジ、ウシ

ノルウェー 現行コインはほとんどが動物コインで、リス、シカ、ライチョウ、ミツバチ、ウマがみられる。

パキスタン マーコール（ウシ科）、ワニ

パプアニューギニア ヒクイドリ、甲なしガメ、ゴクラクチョウ、チョウ（蝶）^{注6}

サンマリノ クモ2種、コガネムシ、エビ

セイシェルズ ウミガメ

シンガポール サギ、タツノオトシゴ、カジキ、ミノカサウオ、ワシ、マナガツオ、ライオンとすべて動物コインで、少し図案化されている。

スーダン カバ、ニワトリ、ヤギ、オリックス、タツノオトシゴ

タンザニア ダチョウ

トンガ ミツバチ、ニワトリ、ブタ、ウシ

トリニダード トバゴ スカーレットアイビス（鳥）
 コクリコバード（鳥）オオゴ、クラクチョウ、ハチドリ

アメリカ合衆国 ハクトウワシ

ベネズエラ オオアルマジロ

イエメン エビ
 ザイレ ゴリラ, オカピ
 ザンビア サイチョウ



カイギュウ(コスタリカ)



エビ
(カイマン)

注1, 2 ヒトデ, ホラガイ

あとの分類表のように、コインの動物はほとんどがせき椎動物であり、無せき椎動物に属するものは、ヒトデ、貝類、エビ、ミツバチ、蝶、クモ、コガネムシだけである。その意味でこれらは珍しいコインである。貝類はホラガイなどの巻貝が3種あるが、二枚貝はいまのところみられないようだ。

注3 シーラカンス

“生きた化石”に属する魚類で、せき索がそのまま残り、足の原型のようなひれがある。

古生代から中生代に栄え、その後絶滅したものと思われていたが、1938年12月に発見され、1952年ごろからコモロ諸島の近海で、毎年数頭ずつとれている。我が国へもフランス政府から寄贈され、解剖によって形態がよく調べられ、現在読売ランドに展示されている。

注4 ケッツアール鳥

ハトを少し大きくしたくらいで、羽冠と1mあまりの尾をもち、極楽鳥に匹敵する美しい鳥。捕えるとすぐ死んでしまい、飼いならせない鳥として有名。支配されないもの一自由一を象徴するものとして、グアテマラの国鳥になっている。

注5 ドド

モーリシャス島にだけ生育していた鳥で、はねが退化し、白鳥くらい(体重約25kg)の鳥。

1507年に発見されたが、人が移した豚によって卵や幼鳥を食われたり、人に殺されたために、1681年に絶滅し、現在は少数の骨格標本を残すのみである。

注6 チョウ(蝶)

切手にはチョウがひんぱんに登場するが、コインでは、1975年に建国したパプアニューギニアで、初めて1トエア青銅貨になった。パラダイスパードウィング蝶と

いう名前の由である。その後モーリシャス島でも発行され2種類になった。



ドド
(モーリシャス)



ケッツアール鳥
(グアテマラ)

2. コイン動物の分類

上にあげた国のほかにも、動物コインがたくさん発行されているが、これらを分類してみると次のようになる。

節足動物門

- 甲かく類 エビ
- くも形類 クモ
- こん虫類 ミツバチ, チョウ, コガネムシ

軟体動物門

- 腹足類 ホラガイ, タカラガイ,

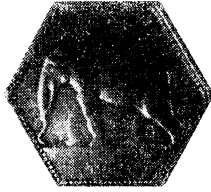
きょく皮動物門 ヒトデ

せき椎動物門

- 魚類 ミノカサウオ, ヒラメ, トビウオ, タラ, サケ, カジキなど約30種
- は虫類 ウミガメ, 甲なしガメ, エリマキトカゲ, ムカシトカゲ, オオトカゲ, ヘビ, ワニなど約10種
- 鳥類 ダチョウ, エミウ, ニワトリ, クジャク, ガン, カンムリヅル, アジサシ, カモメ, ハト, グンカンドリ, ペリカン, フラミンゴ, サギ, ワシ, フクロウ, インコ, カワセミ, ペンギンなど約60種
- ほ乳類 ハリモグラ, カンガルー, サル, ウサギ, イルカ, ネコ, トラ, シロウマ, ビューマ, ライオン, ゾウ, ウマ, アルパカ, ラマ, ヒツジ, シカ, トナカイ, スイギュウ, ウシ, バイソンなど約60種

3. もてる動物ともてない動物

コインの図柄に選ばれている動物は、鳥類ではワシが最も多く(12か国)、ハト、ニワトリがこれに次ぐ。ほ乳類では、ウマが圧倒的に多く(24か国)、ウシ(15か国)、ゾウ(9か国)などがこれに次いでいる。



ゾウ
(ベルギー領コンゴ)



ヒクイドリ
(バプアニューギニア)

環形動物以下のものはコインの図柄になっておらず、ほとんどがせき椎動物で、それも高等なほ乳類が非常に多く、両生類や円口類は全くない。コインの図柄には、その国の特産で、目鼻立ちの整った大形の動物が選ばれるので、ゲジゲジ、ムカデ、イエバエあるいはカイメン、ホヤなどは、コインむきでないのだろう。しかし、1974年にサンマリノで、クモのコインが2種類発行されている。眉目秀麗とはいえず、むしろす気味の悪いクモがコインになったことは、クモぎらいの私にとっては、大きな驚きであった。

美の代表とされる蝶が、1975年、バプアニューギニアの銅貨をかざるまで、コインにならなかったのは、何か意味があるのだろうか。

カエル、サンゴ、クラゲなどにも美しいものがあるから、今後両生類や腔腸動物もコインの図柄に選ばれるかもしれない。新しい動物コインの出ることを楽しみにしている。

最後になりましたが、鳥類の同定については、神戸高校の宮本忠之先生にお教え戴きました、ここに感謝いたします。ほ乳類、ほ虫類、魚類は、コインや写真だけでわかりにくいものがあって、不完全ですから今後確かめたいと思います。

参考文献

- | | | |
|----------------------------------|--------------------|------|
| 藤沢 | 世界のコイン | 保育社 |
| 中村 | 日本のコイン | 保育社 |
| R. S. ヨーマン・岡 | 世界の現行コイン | 泰星 |
| R. S. ヨーマン・岡 | 近代世界コインのカタログ | 泰星 |
| C. L. Krause & C. Mshler | | |
| Standard Catalog of World Coins. | | |
| 松本 | コイン百話 | 平凡社 |
| 中村 | 世界のコイン | 文研出版 |
| 林 | 標準原色図鑑全集 動物 I. II. | 保育社 |
| 藤沢 | 国のシンボル | 頌文社 |